

講義科目 : 社会思想史	単位数 : 2
担 当 : 伊藤 信也	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

1. この講義は、隔年で「西洋中心の社会思想史」と「日本中心の社会思想史」を交互に特集しています。今年には日本の社会思想の歴史に注目して学んでいきます。日本の社会思想の理解を通じて、日本の現代社会のあり方を見直すことを目的としています。日本近代史に対する理解を深め、誤解を改めるきっかけとなることでしょう。

2. また、この講義では「貧困からの解放」というサブテーマを設定し、そのテーマに沿った社会思想も取り上げていきます。思想家の人間観や、そこから生まれた社会理解を通じて、私たち自身の現代社会に対する理解を再検討することが、社会と私たちとの関係の本質を理解することにつながります。

3. 具体的な目標としては、「印象」や「傾向」で社会を見るのではなく、「明確な展望をもって社会と向き合える能力」を養うこととします。

4. 講義は可能な限り工夫して進めます。対面授業の場合はドキュメンタリー・ビデオの上映など、映像による資料を随時使用していきませんが、遠隔授業になった場合、他の方法でバリエーションを検討したいと思います。

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション ～社会思想史と日本～
- 第2回 江戸時代の民衆思想 ～日本の「社会思想」以前～
- 第3回 幕末の社会思想（1）～開国要求による幕末の始まり～
- 第4回 幕末の社会思想（2）～社会運動の本質的問題～
- 第5回 明治前期の社会思想（1）～西洋文明との対峙～
- 第6回 明治前期の社会思想（2）～啓蒙の光と影～
- 第7回 自由民権運動の思想（1）～自由への探求～
- 第8回 自由民権運動の思想（2）～女性解放思想の誕生～
- 第9回 近代日本キリスト者の思想
- 第10回 大正デモクラシーの思想（1）～母性保護論争～
- 第11回 大正デモクラシーの思想（2）～社会主義、無政府主義～
- 第12回 「昭和」の社会思想（1）～「戦前」思想の諸相～
- 第13回 「昭和」の社会思想（2）～「日本」を総括する思想～
- 第14回 「平成」の社会思想～20世紀末から21世紀の日本は何だったか～
- 第15回 「令和」の社会思想を構想するための諸論点

教材・テキスト・参考文献等

・テキストは使用しません（毎回プリントを配布します）。必要な資料等はプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。

成績評価方法

・1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は約40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は約60%）です。

その他

1. 第1週に詳細な「授業計画」ならびに「成績評価方法」、講師への問合せ方法を告知します。履修予定者は最初の週にできる限り出席しておいて下さい。2. 現代の社会問題に関心の高い受講生の履修を求めます。